

東京学芸大学書道科同窓会

硯心会だより 第2号

発行
2018年9月1日

第37回硯心会書展のご報告

硯心会書展部部长 殿村美奈子(33期)

本年の硯心会書展は、去る平成30年7月19日から22日まで銀座洋協ホールにて開催されました。

毎年、硯心会書展は同時期の同会場で行なわれております。今年の夏は例年にならない酷暑となりましたが、連日会員の皆様、関係者の皆様にご来場ご高覧頂きましたこと厚く御礼申し上げます。

今回展は、第5期から66期までの85名の会員の皆様からの世代や流派を超えた多種多彩な作風の書作品をご出品いただきました。また、今回は60期代の若い期を中心に出品者が増えましたことを嬉しく思います。会期中に行なわれた総会や懇親会にも、ご出席を賜り感謝申し上げます。六十有余年も続いている同窓会は東京学芸大学書道科

卒業生の母校を愛する気持ちがあればこそ今日に至っていると実感しています。このような交流の場を共有できることは今後の硯心会の更なる発展に繋がることと期待しています。

また、特別展示は東京学芸大学の先生方のご支援を賜り、書道分野所蔵の「上野三碑」の拓本を展示いたしました。平成29年10月31日に「上野三碑」が第十三回ユネスコ「世界の記憶」国際諮問委員会の審議を経て、ユネスコ「世界の記憶」として登録されることが決定しました。これを受けて今回の展示となりました。この様な貴重な拓本が展示されているこの場に立ち会えたことは書の道を志す私たちにはこの上ない喜びとなりました。

今後、会員の皆様と共に魅力ある展示会を目指し、硯心会書展を盛り上げていけるよう、役員一同一丸となり活動して参る所存です。何卒、ご支援ご協力のほどお願い申し上げます。



特別展示 日本金石拓本 上野三碑

2018年夏季

理事会・総会開催のご報告

去る7月21日(土) 18時より銀座洋協ホールにて理事会および総会が開催されました。詳細は各期理事宛に議事録を事務局よりお送りいたしますが、報告事項・決定事項についてのみ、簡単に報告いたします。

①今年度硯心会書展について

出品者数85名(前年度より6名増)
総来場者数404名
作品集販売部数13冊

- ②次年度硯心会書展(予定)
2019年7月18日(木)～7月21日(日) 10時～18時
18日は13時から、21日は16時まで
作品締切は6月10日(今年度6月1日より変更)
- ③今年度学芸書道全国展
小学生対象の「東京都小学校書写研究会賞」が新設される。
- ④次年度学芸書道全国展(予定)
審査 2019年7月27日(土) 9時30分より
会期 8月23日(金)～24日(土) 表彰式 8月24日12時30分より
- ⑤硯心会だより
9月に「硯心会だより 第2号」を発行予定。理事会・総会の議事録とともに10月上旬に理事宛に発送予定。
- ⑥硯心会名簿
販売2冊(7月22日時点)
- ⑦交流展
今年度日中韓文化交流書作展に日本側から50名の出品者が集まった。
来年度については、北京師範大学、ソウル師範大学、東京学芸大学卒業生を中心とした新しい枠組みでの三國展もスタートさせるので引き続きの協力をお願いしたい。



第42回学芸書道全国展開催される

硯心会と東京学芸大学書道分野の共催による同コンクールが、7月28日の審査を経て、8月26日、27日に東京学芸大学芸術館にて展示された。8月26日には、東京学芸大学・出口利定学長のご臨席を得て、表彰式が盛大におこなわれた。

第42回の出品団体は98団体、総出品者数は7861人と、全国の書道教室、各種学校から多くの出品をいただいた。

最優秀団体賞は、聖徳大学附属女子中学校高等学校、桜美林中学校・高等学校、星野学園中学・高等学校が受賞。

個人賞の最高賞である東京学芸大学学長賞の受賞者は次の通り。

- 小6 三井星奈(星野学園小学校)
- 中1 金子心夢(西武台千葉中学校)
- 中2 楠元大希(浅野中学・高等学校)
- 中3 原口ひなの(勝田書道塾)
- 高1 杉本穂果(都立足立高等学校)
- 高2 山中華鈴(福岡県立大宰府高等学校)
- 高2 田村理莉(大成高等学校)
- 高3 坂山智美(星野学園中・高等学校)
- 高3 山下優月(浜松学芸高等学校)
- 高3 吉田七都海(星野学園中学校)



硯心会各支部・同窓生の活動報告

①千葉硯心会書展のご報告

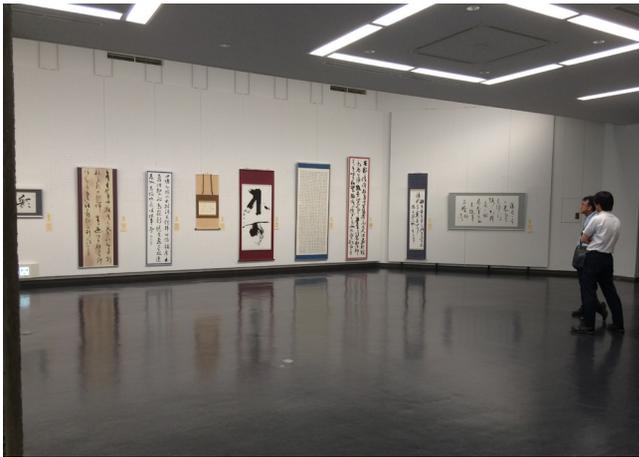
千葉硯心会事務局 石井昭正(31期)

千葉硯心会書展は、原則、千葉県在住・在勤の東京学芸大学書道科出身者を会員とし、現在の会員数は130名ほど。年に一度の展覧会には三分の一程度の会員が毎年出品していますが、転居・高齢化などにより、出品数が減少傾向にあります。若い力に期待したいところです。

平成30年度は8月7日～12日、第47回展として、千葉県立美術館で開催されました。揚石舒雁先生の遺作を含め、33点の作品が展示されました。

折悪しく、期間中、台風の接近に伴い来場者数は500人近くで例年の半分程度でしたが、個性溢れる作品に熱心に鑑賞してくださるお客様の姿が印象的でした。

来年度も、同時期に開催予定です。世話人にも若い世代が加わり心機一転。ご高覧・ご批評賜れば幸甚でございます。よろしくお願い申し上げます。



②埼玉硯心会の活動報告

埼玉硯心会事務局 杉山恵美(25期)

8月5日(日)～8日(水)の日程で埼玉会館第三展示室において第41回埼玉硯心会書作展が開催されました。吉田鷹村先生の賛助出品を賜り、8期から64期まで37名の出品者が80点を超える作品を集結させました。広々とした展示室に大小様々な力作が並び壮観でした。曇りの中、また台風の中多くの方々の参観を頂き盛会の裡に終えることが出来ました。

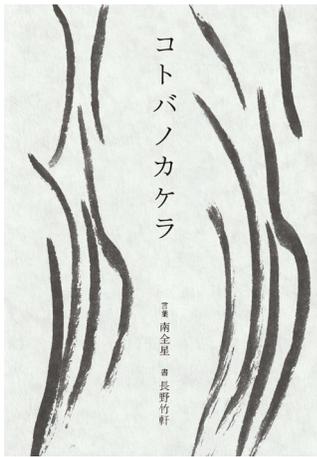
県立図書館で県内在住、在勤の有志が始めてくれたこの展覧会。会場を埼玉会館に移し、徐々に成長しながら続いています。ここ数年新しい仲間、若い人たちが増えて新しい風を吹き込んでくれ活気が戻ってきています。会員数は五十余名。各々が自己研鑽を積むことは勿論ですが、年間を通して、研修の機会を設けて、相互に高め合い展覧会に臨みます。春からは、毎月集まり、作品研究会。また、秋には、会員の秘藏品鑑賞や講演会、美術館巡りなどとして勉強しています。仲間たちとの交流で絆も深まりとても良い雰囲気になっていくようです。これからも相互に高め合い、良い形で続けていければと願っています。



硯心会支部の活動について、硯心会会則付則に「3. 本会は支部を設けることができる。支部は卒業年度（同期生）及び地域別とする」とあります。地域や卒業年度のグループによる活動について、事務局・草津祐介までお知らせください。開催予定または開催報告として、本紙にて紹介いたします。

③『コトバノカケラ』が出版

南全屋 〓 言葉、長野秀章 〓 書による『コトバノカケラ』が、2018年8月、カオステザイン研究所株式会社より出版された。定価は2000円（税込）。お求めは、発行所00077058325（代表）またはファックス03388428889まで。



コトバノカケラ

〓 南全屋 〓 長野秀章

著作等を出版された会員の方は、事務局までご一報ください。本紙にて紹介いたします。

交流展参加報告

交流展事務局 草津祐介(52期)

今年度は、硯心会の後援の下、合計50名にご出品をいただき第15回日中韓文化交流書作展に参加することができた。

7月30日から8月1日の2泊3日で、团长・長野秀章、副团长・上野清美、加藤泰弘と団員・荒井一浩、鎌田宏、姜星美、金敬順、草津祐介、平倉和則、平倉阿未、深谷昌子、渡邊朋子（敬称略、五十音順）の12名が訪韓した。以下簡単に紹介したい。初日——7月30日は、坡州にあるヘイリ芸術村へ向かい、ソウル師範大学の韓泰相元教授のアトリエを訪ねた。淑明女子大学校教育大学院の金香美教授も駆けつけてくれ面識を得ることができた。

その後、韓国の学校で多く使用されている硯（藍浦石）が作られているという保寧に向かい鑑賞・購入した。

翌日——7月31日は、広州にある「美陶窯」（窯主は田元具）へ行き、韓国の陶器を鑑賞・購入した。田氏は、アメリカ、ドイツでの作品の展示・販売や日本の三越、高島屋での

展示・販売もしているという。

その後、京畿大学の水原キャンパスへ向かい、京畿大学校芸術大学の書芸・文字芸術学科の張志薫教授を訪ねた。まず、張教授に大学の施設を案内してもらった。そして、「韓日大学書芸教育 国際交流学術会議——韓国と日本の大学書道教育現況と進路方向」に参加した。また、続けて、日韓席書揮毫会があり、筆墨による交流もおこなわれた。席書揮毫会では、日本側から、長野秀章、上野清美、渡邊朋子が揮毫し、韓国側から、呉光石、金辰濼、李燦熾が揮毫した。

最終日——8月1日、交流展の会場に向かう。会場となっているエリア——仁寺洞は、書道用品店や骨董屋などが充実しているエリアだ。交流展の会場は、その仁寺洞の入り口の非常に目立つビルにあった。会場である韓国美術館に到着し、

兪炳利 〓 韓国書文会代表、瞿志豪 〓 上海市大学書法教育協会会長、張信 〓 上海師範大学教授他と2年ぶりの再会をすることができた。

今年度は、三国あわせて二百点あまりの作品が集まり、圧巻の展示量であった。韓国美術館は来館者の数も非常に多かった。

その後始まった開幕式では、各国のメンバーの紹介、代表・团长の挨拶の他、韓国書藝協会常任理事・金基東、韓国書芸新聞社・崔社長他のあいさつがあった。

開幕式の後には、昔の家を改築したレストランで三国の関係者が集まったの会食をし、二年後日本での再会を約し今年度の交流展を終えた。

来年度は北京師範大学、ソウル教育大学校と東京学芸大学の卒業生を中心とした出品者による交流展を日本東京で開催する。書を介した国際交流にご参加いただきたい。

発行 〓 硯心会本部 〓 一八四一八五〇一
 東京都小金井市貫井北町四一一一
 東京学芸大学 加藤泰弘研究室
 〓 硯心会事務局 〓 四〇二一八五五五
 山梨県都留市田原三一一一
 都留文科大 学校教育学科 草津祐介
 〓 kusatsu@tsuru.ac.jp